

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2010年1月24日発行 第48号

バンコク便り

タイ・バンコク在住の西川会長から

皆さん、明けましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

さて、私事になりますが、昨年引越しをしました。引越しするにあたり、今までとは買い物するときの視点が少し変わり、今までさほど感じなかったことを感じる機会が何度となくありました。今回はそれについて書こうと思います。

引越しして必要になるものと言えば、まず電化製品、生活雑貨などでしょう。私も、去年は、これまであまり縁のなかった電化製品売り場や「ホーム&キッチン」のフロアに何度も足を向けることになりました。様々な商品をああでもない、こうでもないと見て回ったのですが、そこで改めて感じたのは、押しなべて日本より値段が「高い」ということです。税金の問題もあるでしょうが、当地では自動車や電化製品等は日本に比べてかなり割高です。ネットで日本での値段を調べて、日本で買えれば、こんなに節約できるのにと、何度ため息をついたか知れませんが、それに、価格競争もあまりないようで、格安を謳う量販店に行ってみても、値段は高級デパートと同じ。逆に、日本で家電を売っている企業がきちんと儲けているのか心配になるほどです。

生活雑貨も同様です。安かろう悪かろうという物は別にして、そこそこ使えるような物は、日本より割高です。日本の100円ショップがタイにも進出していて、我々が支援するイサーン地方にも支店を構えています。そこで安いのが見つかったとしても、こちらでの値段設定は1品60パーツですので、円換算すると約180円。デパートでいい物を買うのもっと割高になります。

もちろん、生鮮食料品や衣類などは物価は総じて安めですが、我々日本人が好むいわゆる都市生活をタイで送ろうとすれば、日本と同等か、それ相応の費用がかかるのです。私の学生も、そこそこ収入を得ているはずなのに、共働きを止めたら「生活」できない、とよく言いますが、その「生活」というのはあくまで「都市生活」なのだということを、今回、身をもって理解することができました。

もうひとつ気になったのは、日本製品の存在感の変化です。日本製といえば、電化製品などハイテク製品がその象徴のように言われていますが、今タイ国内の電化製品売り場へ行って、一番存在感を放っているのは、日本企業ではなく、何と言っても韓国のサムスンです。機能は品質についてはよく知りませんが、手ごろな値段なわりには、デザインがお洒落で、タイでは相当の人気です。販促もかなり積極的で、私が以前サムスン製のエアコンを買ったときには、日本製より安いのに、おまけに電子レンジと500パーツ足せば炊飯機がもらえるという特典がついてきました。思い起こせば、サムスンは、私がタイに来た当初、白黒液晶が当たり前だった携帯電話市場に、カラー液晶・カメラ付きという最新モデルを大胆な広告とともに積極投入し、瞬く間に「サムスンは高いけど性能がいい」という高級イメージを確立してしまった企業です。それから、廉価品にも手を広げ、今やどこにいても「サムスン」、「サムスン」です。日本製品はというと、高機能で値段も張る高級モデルか、いかにも途上国向けに作ったと見える安いけれども、デザインも数十年前にタイムスリップしたかのような古めかしい物かのどちらかです。日本製品を応援したい気持ちはやまやまですが、何となくこのまま韓国企業に差を広げられていくような気がしてなりません。

反対に、生活雑貨では、日本製や、日本製ではなくても日本市場向けの物が売り場に溢れています。以前はこれほどではなかったと思うのですが、収納、掃除グッズやタッパーなど等、何かしらひと工夫ほどこしてあって、「これは便利!」と思えるのは、たいてい日本製です。

ハイテク製品で日本企業の影がだんだん薄くなり、代わりにというわけではないけれど、ローテク製品で日本企業が健闘している。こんな状況を、日本人として、嬉しいような寂しいような、どちらともつかない気持ちで眺めながら、デパートをぶらぶらしている今日この頃です。

西川弘達@バンコク

報告 1

～奨学金プログラム～

報告者：白柳 美穂

1. ドナーの皆様へ

昨年10月末に、ドナーの皆様へ奨学生の申請書類や手紙と一緒に、奨学生との親交を深めていただくため「奨学生への質問絵葉書」を送付させていただきました。

その後、事務局に質問を添えて絵葉書をご返送いただきましたドナーの皆様、誠にありがとうございました。事務局で順次翻訳を行い、完成したものをタイの奨学生へ発送させていただきます。そして、まだ送付していただいていない方、只今、事務局では奨学生への質問を受け付けておりますので、何か質問やコメントを添えて送付していただけると幸いです。

タイではグリーンティングカードのやりとりも盛んに行われていますので、質問とは別にお手紙を送りたい方など、当局の翻訳サービスをぜひご利用下さい。

<送付先のご案内>

〒450-0003

名古屋市中村区名駅南2-11-43 日商ビル2階

NPOステーション内 キャンヘルプタイランド 翻訳係宛

ドナーの皆様から奨学生への質問絵葉書、お手紙等、お待ちしております！！
その他、事務局へのご要望等ありましたらお寄せいただくと幸いです。

※ 市町村合併に伴い住所が変わられたドナー様及び会員様は、お手数ですが事務局まで新住所お知らせいただけますと幸いです。

<連絡先> キャンヘルプタイランド事務所

TEL 052-566-5131 (火・木・土 13時～17時)

E-mail canhelp_ml@yahoo.co.jp

2. 奨学生からの手紙のご紹介

タイから届いた奨学生の手紙を何枚かご紹介させていただきます。

僕は、ティーラボン・トンターと申します。

今は、ヤソトーン県の高校3年生です。僕の勉強のために、僕の将来のために奨学金を下さってありがとうございました。僕は今、年高校3年生で、高の最後の1年となります。大学に進学できれば一所懸命勉強したいと思います。知恵を蓄えて社会のいい人になり、助けを求めている人を助け、両親や恩恵のある人のいい子になります。

心優しいドナー様からのご支援で奨学生になれることを感激し、嬉しく思います。ドナー様及びご家族のご多福、ご健康、ご成功をお祈りいたします。大変ありがとうございました。

ティーラボン・トンタ



こんにちは。私は、パーヌッチャナード・サララットと申します。今は、ロイエット県の中学2年生です。私に奨学金の支援をしてくださり、大変感謝いたします。この恩を一生忘れません。一生懸命勉強し、両親や国のいい人になりますよう、約束いたします。両親の家事をずっと手伝います。本当にありがとうございました。



パーヌッチャナード・サララット

僕は、ノンタチャイ・モントリーと申します。サケーオ県の中学1年生です。僕の家族は4人います。僕は3人目です。両親は離婚して、僕はおばさんのところにお世話になっています。おばさんの手伝いをできるだけしています。兄は違う県で仕事しています。僕はとても寂しいです。両親も兄も一緒にいません。学校の休みになったらみんな戻ってきます。両親は日雇い労働をしてたまにしか仕送りしません。そのお金も僕の勉強には足りません。だからドナー様からの奨学金が必要です。頂いたお金を有効に使います。



ドナー様から奨学金を支援していただきとても感激です。一所懸命勉強を頑張ります。ありがとうございました。

ノンタチャイ・モントリー

3. 翻訳会

2008年10月18日（日）午後1時から年内最後の翻訳会を名古屋事務所で開催致しました。

JICA 中部、名古屋 NGO センター主催の広報研修で完成したパンフレットをタイ人講師大久保スリラット先生、名古屋大学大学院に留学中のタイ人留学生3名を招き、日本語からタイ語へと翻訳していただきました。

タイ語にはない表現もあり、カサロンに長期ボランティアとして参加していただいた浅井美里さんのサポートに助けられながら、わずか数時間で全ての翻訳を完成することが出来ました。



今後も、翻訳会が翻訳作業のみならず、名古屋に住むタイ人の方との楽しい交流の場となるようにしていきたいと思っています。

翻訳作業を通して、タイ語やタイの文化に触れられる機会はなかなかありませんので、タイ語や翻訳に興味のある方、ぜひご参加ください。

今年も夏頃に翻訳会を開催する予定です。

報告 2

～プロのアドバイスを受けてパンフレットを作る研修～

2009年6月25日（木）～12月17日（木）の約半年間に渡って、JICA 中部と名古屋 NGO センター主催の「地域 NGO の『広報力』を高める研修2009～プロのアドバイスを受けてパンフレットを作る研修」全7回に参加しました。研修会場は、名古屋駅から徒歩15分のところに新設された JICA 中部国際センター2階セミナールームにて行われました。



カンヘルプタイランド以外にインドやフィリピンなどで支援活動を行っている10団体が厳しい選考会を通過して参加していました。今回の研修会のために、埼玉から広報プランナーの講師を招き、「会社組織と NGO 組織の違い」や「広告はラブレター」など、今後の活動のためになるようなことも多く学べ、実り多い研修会でした。



第3回目からはプロのデザイナー4名が出席し、それぞれの団体が思い描くイメージなどを伝え、具体的な内容、文章構成などパンフレットを作成していきました。



普段、プロの方と接する機会がないので、各団体の要求に応えるプロの方の仕事に対する姿勢を見られたこと、そして、タイ以外の国を支援する団体の多さ。参加された皆さんの志の高さや、自分の知らないところでこれだけ多くの方が世界平和のために真摯に活動されている姿に感銘を受けました。



カンヘルプタイランドからは、松本、白柳の2名で交互に参加させていただきましたが、文章校正など早い段階から運営委員にも参加してもらい、みんなで作り上げたパンフレットだと思っています。



最後の研修会では修了証書をいただき、参加者全員で記念写真を撮りました。

完成したパンフレットをツールとして使用し、多くの人に呼びかけたいと思います。皆様のお手元に送付させていただきましたパンフレットも、ぜひ知人、ご友人の方に配布&ご紹介いた

だきますようよろしくお願ひ申し上げます。

「パンフレット人気投票会 in 栄オアシス」

10月24日（土）、25日（日）に栄のもちの木広場でワールドコラボフェスタが開催されましたが、オアシス会場では、先日 JICA 中部と名古屋 NGO センター主催の広報研修で作成した「パンフレット人気投票会」が名古屋 NGO センターのブース内で行われました。

研修会に参加した11団体のパンフレットが掲示され、イベントに参加されている一般の方々に自由に閲覧いただき、いいと思った団体に各自シールを貼っていただきます。

キャンヘルプタイランド（以下、キャン）のパンフレットはタイの子どもたちの笑顔がメインで表紙になっています。イメージカラーの水色は、タイで見る果てしなく続く青い空を意味しています。

キャンのパンフレットにもシールを貼ってくれている方がいらっしゃいました。

惜しくも1位にはなれませんでしたでしたが、多くの方に興味を持っていただきました。



報告 3

～ワールド・コラボ・フェスタ・2009に参加して～

報告 大矢 治夫

2009年10月24日～25日の両日、「ワールドコラボフェスタ2009」が名古屋市・栄のオアシス21～久屋大通公園「もちの木広場」にて開催されました。このイベントは東海地区で活動するNGO・NPO団体の活動を市民に紹介するイベントとして、毎年開催され、沢山の市民が訪れます。キャンヘルプタイランドの活動を広く一般市民に広報できる機会として毎年参加する恒例事業です。

今年は天候にも恵まれ大勢の市民がブースを訪れました。タ



イ雑貨の販売・2009年の活動写真パネル展示・タイ文字の名刺作りなどで、キャンの活動を紹介しました。

奨学金プログラムでお世話になっている翻訳ボランティアの皆さんが、タイ語の名刺作りや、雑貨販売に協力くださり、大いに盛り上がった2日間でした。新パンフレッドや翻訳ボランティア募集のチラシが好評で、新規会員獲得にもつながることと期待しています。今年も開催予定です。皆様のおいでをお待ちしています。



報告 4

～中学生の総合学習授業での訪問報告～

報告 大矢 治夫

今年も中学校の総合学習授業の一環として、国際交流をテーマに、名古屋市近辺の中学校から事務所訪問の依頼が寄せられます。キャンヘルプタイランドの教育支援活動がガイドブックや、インターネット検索から比較的容易に検索できることから、授業への協力要請が毎年数件寄せられます。事務所へ生徒達が訪れて、90分～120分ほどキャンの活動や、ボランティアの意義などを紹介します。以前はキャン組織の事前の勉強をしてくる生徒は極まれでしたが、近年はあらかじめ質問書を提出するなど、感心させられます。昨年10月29日に訪問された江南市立宮田中学校の生徒たちは16項目に渡って質問が寄せられました。中学1年生が理解できるようにていねいな回答を作るのは結構時間のかかることでした。

約2時間の説明や、資料を基に生徒たちは報告書を作成して校内で発表するとのことでした。

2週間ほどして、生徒たちのお礼状が届きましたので以下紹介いたします。

○君

今回キャンヘルプタイランドを訪問して僕たちの為に、資料や質問をていねいに答えていただき、ありがとうございました。

タイの生活の様子を聞いて、日本はとっても恵まれているなと思いました。

タイは日本と違い芋虫やバッタも食べる習慣におどろきました。

タイのくらしと比べれば、水の出っぱなしや電気のつけっぱなし、一番は食べ物を粗末にしないようにしようと思いました。

今回のこの勉強を生かして、今後タイに行って、タイの子供に会いたいなと思いました。タイの人たちに少しでも役にたてればいいなと思いました。

キャンヘルプタイランドを訪問してよかったです。

○君

キャンヘルプタイランドへ行って、タイのいろんな事がわかりました。いろんなことを知ってもっともっと知りたいと思いました。

ぼくは虫とかそういうのをタイの人が食べると聞いて、ぼくには食べられないと思いました。

言葉は日本語と態度で、2～3回言ったら気持ちに通じ合うことを知りました。

食べ物を残したりする事があっても、これからはすこしずつ残さないようにしようと思います。

タイの子供の遊びはサッカー、バレーボールとかセパタクローとかいろんな遊びをする事がわかりました。

またキャンヘルプタイランドの人がなにをやっていたかが、だいたいわかりました。そしてすごく大変なことだと思いました。

すごくタイの人が大変だとわかりました。

Mさん

おおやさんからお話を聞いて・・・

私は今までの自分の生活が恥ずかしくなりました。

タイの国の田舎では水道が無く、きれいで安全な水がありません。その一方、私たち日本ではどこの地域に行っても水道はあるし、いつもきれいです。

それなのに、私は今まで当たりまえのように水の無駄使い。出しっぱなしをされていて、そのことを反省しました。

キャンヘルプタイランドでボランティアをやっている皆さんは無給でやっていると知って「すごいなあー」と思いました。それなのにタイには全力で支援をしている。本当に、本当に、本当に「すごいなあー」と思いました。

日本は平和です。平和すぎです。世界で一番平和な国だと思います。

食べ物には困らないし、住むところもしっかりしています。そんな日本が貧しい国の支援をするのはあたりまえなのかなあと感じました。

私はまだ中1で、子供だから「タイの国の支援をするぞー」なんて無責任なことは言えないけど、道端や、近所、友達、家族で困っている人がいれば、少しでも役立てるように、少しでも喜んでもらえるように、助けてあげる人になりたいです。そして世界中が助け合って暖かい世界になればなあーと思いました。

分かりやすい説明、ありがとうございました。感動しました。

今私ができること。 食べ物は食べきる。水のむだ使いをしない。

Fさん

最初、キャンヘルプタイランドのことを事前学習で調べていました。

一番びっくりしたことはボランティアでやっていることでした。最初は仕事でやっていることだと思っていました。ボランティアでタイの子供たちを支援している事は、勇気のいることでもあります。無給でやるのなら、自分はやりたくないなあーと、ほとんどの人が思います。だけどキャンヘルプタイランドでボランティアをやっている人たちは、タイの人たちが大好きなんだなあーと思いました。

タイの子供たちはきれいな水もないし、医療も発達していなくて、私たちはきれいな水も飲んで、医療が発達していて、いろいろとめぐまれているなあーと思いました。

私たちの為に分かりやすく、プリントを作ったり、カラーの本当に分かりやすいパンフレッドをもらって、ありがたいなあーと思いました。

ありがとうございました。

Fさん

私は昨日キャンヘルプタイランドという訪問地へ行ったとき、すごく人がすくないなあーと思いました。あんなに少ない人数で、無給でタイの人々の「役に立ちたい」という思いだけで、活動しているのを見て、「すごいこと」と思いました。

でも一番すごいことと思ったことはタイの人々は屋台などで虫を売っていることでした。タイの人々は虫を食べていたなんて初めて知りました。

私はキャンヘルプタイランドで水の大切さや、ごはんを毎日十分に食べられるありがたみを知りました。だからこれからは水の出しっぱなしに気をつけたり、ごはんを残さないようがんばります。

お知らせ

～2010年3月ワークキャンプ参加者募集～

今年も3月にチェンマイ県カサロンの家（山岳部少数民族の子どもたちのための寮）でワークキャンプを行います。既存の寮の改築工事を行い、子どもたちがより良い環境で生活できるようにします。高校生以上の健康な方ならどなたでも参加できますので、ぜひこの機会にタイを体感してみませんか？

場 所：チェンマイ県ドイサケット郡「カサロンの家」

日 程：（予定）3月14日（日）～3月21日（日）

費 用：航空券込みで10万円程度

詳しくは事務局までお問い合わせください。

お知らせ2

～2009年度総会のご案内～

2009年度総会を下記の日程で開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。詳細は後日会報、議案書などをお送りいたしますのでそちらをご覧ください。

日 時：3月28日（日）13:00～15:00

場 所：キャンヘルプタイランド事務所

総会終了後懇親会を予定していますので是非ご参加ください。

運営委員会

（2009年11月～2010年1月）

活動	月日	場所	内容
運営委員会	11月28日	事務所	パンフレット研修、春のキャンプについて
運営委員会	12月26日	事務所	20周年記念事業について 忘年会
運営委員会	1月23日	事務所	春のキャンプ、奨学金について

運営委員募集

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は 2月27日（土）13:00～（事務所にて）です。

編集後記

▼ 2010年になってしまいました。日本はいまだに不況から抜け出せません。他の国の経済は徐々に回復傾向にあるのに…。日本の政治家は本気で日本経済を立て直す気があるのでしょうか？で何億円という政治献金が飛び交う中で生活している人には不況なんて全く関係ないのでしょうか？政権が交代してもやっていることは今までと一緒ですね。政治って本当にそんなにお金がかかるものなのでしょうかねえ。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.48>

発行 キャンヘルプタイランド

発行人 西川 弘達

編集人 坂 茂樹

発行日 2010年1月24日

住 所 〒450-0003

名古屋市千種区名駅南2-11-43

NPOステーション内

Tel & fax 052-566-5131

（OPEN：毎週火、木・土曜の13～16時頃）

E-mail: canhelp@npo-jp.net

ホームページ: <http://www.canhelp.npo-jp.net>